

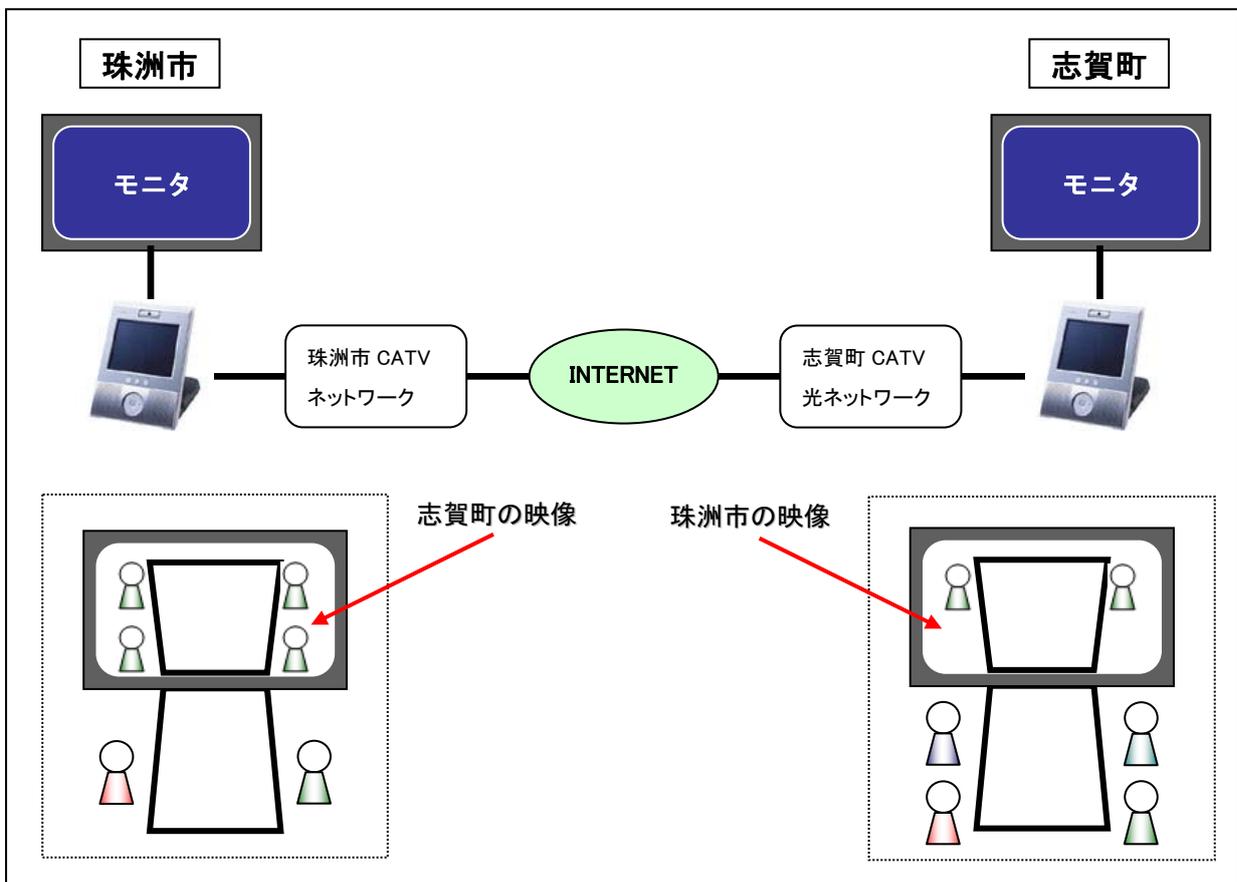
## ブロードバンドを用いた遠隔夕食会の開催結果について

### 1. 実施概要

ケーブルインフラを用いて提供されるブロードバンドサービス（インターネット）を活用し、能登地域の2世帯（珠洲市～志賀町間）の家庭をテレビ会議システムで結んだ遠隔夕食会の実証実験を行った。

- (1) 日 時 平成 20 年 11 月 12 日 19 時～
- (2) 場 所 珠洲市大谷町 及び 志賀町高浜町
- (3) 家族構成 (珠洲市側) 父、母  
(志賀町側) 長女夫婦、孫（2人）
- (4) インフラ構成 (珠洲市側) CATV（能越ケーブルネット）  
(志賀町側) 町営ケーブルテレビ（光）

### 2. ネットワーク構成



### 3. ネットワーク接続機器



**IPテレビ電話：  
フレッツフォンVP1000  
NTT西日本**



機材セッティングの様子

#### 【仕様】

基本機能	TV 電話	映像：MPEG4/H.263 音声：G.711（ハンズフリー）
	ストリーミング	Windows Media® 9
	WEB ブラウザ	Internet Explorer® 6.0 for Windows® CE
	IP 電話	音声：G.711（ハンズフリー）
	表示	TFT LCD（VGA8 インチ）、65,536 色
	カメラ	CMOS 30 万画素
	操作	タッチパネル
	TV 出力	映像：NTSC Composite video × 1ch、S-Video × 1ch 音声：Stereo × 1ch
	ネットワーク	10BASE-T/100BASE-TX
対応プロトコル	IPv4/IPv6、SIP（IP テレビ電話サービス対応）/H.323、 その他 UPnP（NAT トラバーサル機能）、PPPoE	
ユーザ I/F	ボタン	方向ボタン、インターネットボタン/メールボタン/TV 電話ボタン
	電源ランプ	電源が入っているときに緑色に点灯
	LINK ランプ	LAN のリンクが確立しているときに橙色に点灯
	DATA ランプ	LAN のデータが送受信されているときに緑色に点灯
外部コネクタ	USB ポート	USB1.1 以上 × 2
	LAN ポート	10BASE-T/100BASE-TX × 1
	S 映像出力端子	NTSC S-Video OUT × 1
	映像出力端子	NTSC Composite OUT × 1
	カメラ入力端子	NTSC Composite IN × 1
	マイク入力端子	Mono IN × 1（φ3.5 ミニプラグ、プラグインパワー対応）
	ハンドセット 接続ポート	専用インタフェース
電源コネクタ	DC Jack × 1	
電源	入力電圧：AC100V、50/60Hz 定格出力：DC12V/3.75A	
消費電流	最大 2.0A	
動作環境	温度：5°C～40°C、湿度：5%～85%（ただし、結露しないこと）	
電波妨害波規格	VCCI クラス B	
サイズ	214（W）× 227（D）× 243（H）mm	
重量	1.7kg	

※NTT西日本ホームページより

#### 4. 有用性の検討

遠隔夕食会の有用性の検討のため、夕食会に参加した各関係者の意見・感想を調査した。

##### ■ 体験者のコメント

最高です。孫たちが病弱なので、今日はすごくはしゃいでいたので、ほっとしています。いつも常にメールをしては、「今日病院に行ってきた」とかそんな感じなので、この珠洲にはなかなか来れないので、そういったときにこのように孫たちの顔を見ることができて、『すぐそこ』、『手が届く』、という感じが良いですね。

##### ■ 有識者（見学者）のコメント

文字（メール）や音声（通常電話）によるコミュニケーションよりも、今回の実験的「遠隔夕食会」でみられた普段のあるがままの様子が実感できるビジュアル・コミュニケーションは、利用者双方の喜怒哀楽が直に伝わり、相互信頼と人間関係の深化に役立つ手段であることが確認できました。このようなビジュアル・コミュニケーション・ツールの普及によって、ユビキタス・ネット社会が実現することを期待します。

##### ■ ケーブルテレビ（ブロードバンドサービス）関係者のコメント

これまでの通信方法である電話では、会話のみであるため、その表情や様子を知ることができないが、今回の夕食会で使用した機器は、カメラと画面がセットになっていて、相手の表情や様子を見ながらの通信であり、これからの新しい通信のあり方であると感じた。こうしたことは、今でも、パソコンを使って同様のことはできるが、年配者には取扱いが難しいものである。珠洲市のように高齢化率が40%を超えている所では、都市部に家族がいたりするケースが多いため、こうした機器が普及することで、新たなコミュニケーションツールとして、大いに活用できるのではないかと感じた。

##### ■ 通信事業者のコメント

夕食会に参加されたご家族の方々の喜んで頂けた姿がよかった。珠洲市側の奥様のコメントで、こうした技術が非常に簡単に実現できることに驚きというご感想をいただきよかったと思う。夕食は家族団らんの時間と空間であり、それが遠隔地との間でも気軽にしかも違和感なく共有することができれば、家族間や親戚間の日常のコミュニケーションが深まり、大変有用であると考えます。

##### ■ 遠隔夕食会の様子



## 5. まとめ

遠隔夕食会に参加した各関係者からは、いずれもコミュニケーションツールとしての将来性に期待する声が聞かれた。高齢化、核家族化の進む現代において、声だけでなく、相手の様子を手軽に伺える本システムは、ICTの新たな活用法として大きな期待が持てる。

また、今回の実証実験では、臨場感を出すために、大型モニターやマイクを導入し、双方の楽しい雰囲気を作り出す工夫を行ったが、既存の機器だけでも十分コミュニケーションが図れることも確認できた。今後は、一定期間のモニターを実施し、双方向コミュニケーションとして、夕食時以外の様々なシーンでの活用についての有用性を検討していくことが望ましい。